

大学教育の中で社会人基礎力を高めるために

—協同作業の効用認識を通じた心理プロセスの変化—

M122893 吉田 順子

1. 研究の背景と目的

急激な社会情勢の変化に伴い、大学は産業界や地域社会から高度な人材育成を期待されている。一方、大学教育のユニバーサル化による大学と大学生の多様化を背景に、学生の資質低下に対する嘆きや学歴の効用に対する懐疑的な声が聞かれ、学士課程教育の質保証を求める声は強い。学生の多くは学歴を得るために大学へ進学し、翻って大学は学生を社会人に移行させる役割を担っているといえよう。しかし、近年の若年層の完全失業率は継続的に高い数値を示し、非正規雇用者も増加しており深刻な問題となっている。そこで、本研究では大学教育は若者にとってどのような職業的意義や効用をもつのか、大学教育で高めるべき力はどうのようなものかを明らかにすることを目的とした。

2. 大学教育の意義と学歴の効用

教育の職業的意義および学歴効用についての先行研究レビューを行った。学歴の効用は学校を卒業し社会に出てから表出するという時間的隔たりによって見えにくく、過小評価されがちである。しかし大卒者と高卒者を比較分析すると、大学教育は経験を活かし、同時に自己学習で伸びる人材を育てている可能性を示した。大学教育の重要な要素は能動的な学習経験である。

3. 企業が新入社員に求める力

大学生の大半は卒業後、企業等ビジネス組織に就職する。大学教育が企業の求める力を学生に身につけさせることは重要であろう。しかし、大学側の教育目標は専門分野の知識や技能が中心であり、企業の求める汎用的能力との乖離が見られる。後者について、中央教育審議会や経済産業省が掲げる「学士力」や「社会人基礎力」を整理すると、産学双方が重視するのは「他者と関わりながら、自分を律し、現状把握して新たな価値を生み出す力」であった。社会で多様な人々と協同しながら成果を上げ、さらに自己が成長し続けるために、これらの汎用的能力が必要とされている。

4. 研究1・2の概要

本研究では、協同作業経験の質および作業中の感情が協同作業認識を通じて社会人基礎力に影響するかどうかを検討するため2つの実証研究を行った（ここで検討する社会人基礎力は課題遂行能力と時間的展望により測定）。いずれも質問紙を用いた調査であり、研究1において、男女大学生を対象とした過去の協同作業経験についての横断的調査分析を行った。続いて研究2において、女子大学生を対象に、授業で行った協同作業経験の前後で認識変化のプロセスを確認した。

近年、非正規就労者の増加を一因として女性の貧困リスクが高まっているため、本研究では特に女性に着目することとした。

5. 考察

大学生が協同作業を行うことにより協同効用が高まると課題遂行能力が高まる可能性が示された。一方、互惠懸念の高まりは課題遂行能力を低下させることが示された。協同作業認識は、大学入学後の協同作業体験によっても変化し、授業で行う協同作業によっても事後的に変化することが示されたため、社会人基礎力の向上を意図して大学の授業に協同作業を用いたプログラムを導入することは、意味がある。また協同効用は展望主義を高めることから、学生は教育の意義や効用を認識し、学習に対して動機付けられる可能性がある。結果として学習習慣が定着すれば、将来における学歴効用に望ましい影響を与えることが期待できる。しかし、協同作業体験の質により協同効用認識はプラス、マイナスいずれの影響も受けることが示された。特に「非協力者の存在」によるマイナスの影響は留意すべき点である。また、協同作業をとおし、自分自身が普段以上の力を発揮できたという意識が協同効用を高めることが示されたことから、課題の質への配慮の必要性も確認された。

6. 研究の成果と展望

現在各大学では能動的学習を目的として協同作業を行うプログラムを導入している。本研究では大学における協同作業の体験は学生の協同作業への認識を介して汎用的能力を高めることが示された。また協同効用の認識は展望主義を高め、学習に対する動機付けにつながることも示された。一方、協同作業がプログラムや協同作業体験の質によっては逆効果をもつことも示された。協同作業によって社会人基礎力を高めようとするならば、本研究で示された協同作業認識の変化プロセスを踏まえたプログラムの構築、作業中の振り返りおよび教員の介入、作業後の振り返りを行うことが有効だろう。

本研究では大学ごとの機能分化を前提として、特に研究2において小規模の調査を行ったため、サンプルの偏りがあった。またサンプル数の少なさから分析を行う際に統計的に有意な知見を検出しにくいという問題があった。今後、多様な科目と担当教員をめぐる横断的な調査が必要であろう。また、学年による相違を検討すべきであり今後の課題とする。